

県産木材の使用を明示する表示板の基本様式について

1. 基本様式

(1) 必須記載事項

- ① 実施年度、② 事業名、③ 使用した樹種、④ ひょうごの木マーク

(2) 任意の記載事項

- ① 県産木材の炭素貯蔵量 (CO₂換算量)、② スギ換算本数

(「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」に基づく計算式で算出可能。<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/mieruka.html>)

- ① 炭素貯蔵量 (CO₂換算量) : $C_s = W \times D \times C_f \times 44 / 12$

C_s : 建築物に利用した木材 (製材のほか、集成材や合板、木質ボード等の木質資材を含む。以下同じ。) に係る炭素貯蔵量 (CO₂換算量) (t-CO₂)

W : 建築物に利用した木材の量 (m³) (気乾状態の材積の値とする。)

D : 木材の密度 (t/m³) (気乾状態の材積に対する全乾状態の質量の比とする。以下同じ。)

C_f : 木材の炭素含有率 (木材の全乾状態の質量における炭素含有率とする。以下同じ。)

※参考

スギ1 m³あたり : $C_s = 1 \times 0.38 \times 0.5 \times 44 / 12 = 0.70 \text{ t-CO}_2$

ヒノキ1 m³あたり : $C_s = 1 \times 0.44 \times 0.5 \times 44 / 12 = 0.81 \text{ t-CO}_2$

- ② スギ換算本数 : $C_s / 0.505$

46~50年生のスギ人工林1haに750本の立木があると仮定した場合、スギ1本あたり約505kg (=0.505t) のCO₂を蓄積していると推定。

(3) 表示板サイズ

- ・室内木質化及び屋外木質化の場合は、A5サイズ (148mm×210mm) 以上
- ・木製品導入の場合は、使用の邪魔にならないサイズ

基本様式

ひょうごの木

(兵庫県産〇〇使用)



この〇〇は、「令和〇年度ひょうご木の街木質化推進事業」
を活用し整備しています。

参考例

県産木材使用量が、壁(スギ 7.2m³)、床(ヒノキ 15m³)の場合

ひょうごの木

(兵庫県産スギ・ヒノキ使用)



県産木材の炭素貯蔵量 (CO₂換算)

約 15 t - CO₂

スギ約 30 本分の二酸化炭素蓄積量に相当します。

この壁・床は、「令和7年度ひょうご木の街木質化推進事業」
を活用し、整備しています。